

I 学校の概要（立地状況等含む）

平成 23 年 1 月に約 300 年ぶりとなる大規模噴火を起こした新燃岳から南西へ約 6 km。火口から最も近い位置に立地している学校の 1 つである。

これまで、年間 1 回、大規模噴火のあった 1 月に霧島市安心安全課の支援・指導を受けながら避難訓練を行ってきた。令和 3 年度から年度当初（4 月）にも短時間（ショート）の避難訓練を実施し、年間 2 回の避難訓練を行うこととした。

II 避難訓練の取組の概要

1 取組の内容、方法等

- (1) 避難訓練(ショート)の実施と反省点・課題点の共有(4月)
- (2) 職員会議において避難訓練の実施内容の検討(12月)
- (3) 市安心安全課防災グループとの打ち合わせ(1月)
- (4) 避難訓練の実施と反省を次年度教育課程に反映(1月)

2 避難訓練の内容とねらい

- (1) 予想が難しい噴火災害に備え、新 1 年生の入学、職員の異動直後に最低限の対応ができるように避難訓練(ショート)を位置付けて実施(4月23日)
- (2) 「例年どおり」ではなく、常に最新の防災対策に基づいた訓練を実施するために、霧島市安心安全課防災グループ担当者と本校にて現場打ち合わせを行い、改善点等の指導を受ける。(1月)

3 避難訓練実施までに工夫したこと

- (1) 平成 23 年の噴火時に本校を含めた近隣で発生した災害(噴石によるけが、空振によるガラス破損)を想定した避難訓練を計画した。
- (2) 職員会議で検討した内容をもとに霧島市安心安全課防災グループ担当者と確認し、指導を受けた後、変更点等を確認し、再度、職員間で共有を図った。
- (3) 職員会議での実施内容の検討に加え、訓練前日に職員で現場打ち合わせを行った。

4 避難訓練の状況

- (1) 噴火想定避難訓練の実施
 - ア 開催期日：令和 4 年 2 月 24 日(木)
 - イ 参加者：全児童、全職員
市安心安全課防災グループ
消防署(電話対応)

(2) 避難訓練の実際



【噴石によるけがへの対応を想定した場面】



【避難後に安心安全課からの講話を聴く場面】

5 取組の成果と課題

(1) 成果

噴石による屋外でのけがへの対応やそれを防ぐための屋内避難、空振によるガラス破損への対応など、想定される人的被害を最小限にするための訓練を、児童・職員ともに危機感をもって行うことができた。市安心安全課防災グループとの連携により、その時点で最善と考えられる避難訓練を教育課程に位置付け、実施することができた。

(2) 課題

火山噴火による災害は、噴石、降灰、空振など様々な事象が予想され、それぞれに対応した避難行動が多種多様になるため、児童の発達段階に応じた最善の避難方法の検討が常に必要である。